

業務の取組体制、設計チームの特徴、特に重視する設計上の配慮事項(様式-4-1~4-3に記載する内容を除く)、その他の業務実施上の配慮事項

【業務の取組体制】

対話型の設計により、様々な「つながり」を大切にしながら新たな職業教育拠点づくりを行います

地域とつなぐ

ワークショップなどにより、地域住民の思いを共有し計画に反映することで、地域に根差し、地域に愛される施設づくりを行います。

学習をつなぐ

県や学校関係者への十分なヒアリングにより、2校の伝統を継承しながら、6次産業化に対応した先進的な学びを実現する施設づくりを行います。

未来へつなぐ

地元企業や各種団体にヒアリングを行い、地域ブランドの創造や地域の活性化につながる、協働的な学びの場をつくり出します。

【設計チームの特徴】

■ 教育施設のエキスパートを集めた設計チーム

- 豊富な経験を持つ管理技術者を中心に、教育施設に精通し寒冷地での実績がある各主任担当技術者による設計チームを編成し、高品質な施設を実現します。
- 東北事務所と連携し、近隣での実績や地の利を活かし、綿密かつ迅速に対応します。

■ 3つの専門チームによる強力なバックアップ体制

- エキスパートチームは、仮設計画、防災計画、ユニバーサルデザインなど専門的な知見を有するスタッフが多角的な視点から設計を支援し、高品質な設計を行います。
- サポートチームは、コスト管理、環境技術支援、BIMによる各種シミュレーションなど工学的知見を活かし、設計業務を支援します。
- チェックチームは、技術審査会にて審査及び検証を行い、品質管理を徹底します。

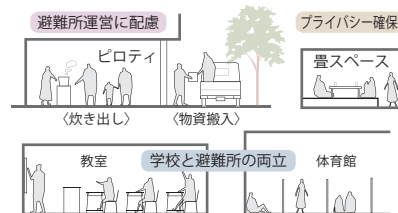


【設計チームの特徴】

【特に重視する設計上の配慮事項】

■ 充実した快適な学習環境・地域連携の場を創ります。

- 6次産業化にむけた専門性の高い施設、様々な屋外空間の整備により、地元企業との連携や住民の生涯学習等、地域が共に学び成長していく場を提案します。
- 建物は2階建てとし、広場等の屋外空間を活かした明るく快適な学習環境とします。
- ユニバーサルデザインに配慮し、誰もが使いやすい連携の場をつくり出します。



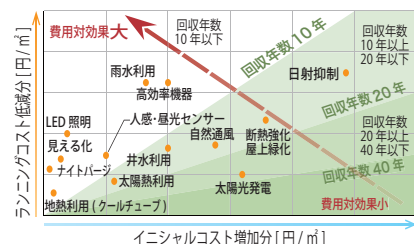
【必要な防災機能の検証】

■ 工事中の安全・学習環境に配慮

- 工事車両の搬出入動線や工事エリアは、学校動線や生活動線と明かに分離し、生徒や周辺住民の安心安全に配慮します。
- 工事車両の台数低減、騒音や振動の軽減を可能とする適切な工法を提案します。

■ 地域の環境に寄り添う学校

- 東日本大震災や熊本地震等における弊社の災害調査チームによる知見を活かし、水害に対応した近隣公園との連携を考慮して、今回は特に地震への対応を強化した防災計画を立案します。
- 冬期の季節風を考慮して建物配置するなど、地域の気候風土に適した計画とします。
- フレキシビリティの確保、維持管理の容易な仕上、更新性の高い設備システムの採用など、カリキュラムの変化に対応した将来を見据えた使いやすい施設とします。

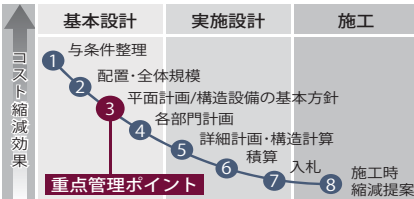


【費用対効果の検証】

【その他の業務実施上の配慮事項】

■ 適切なスケジュール・徹底したコスト管理

- 設計初期段階で詳細な現地調査を行い、施工上の問題点を抽出し対応策を講じます。
- 基本設計を2つの段階に分け、各段階でワークショップや設計審査、設計検証を実施し、計画内容の検証と改善を行い確実に設計に反映します。
- 2回の概算を基本設計で行い、構造や設備等コストに大きく影響する項目を早期に洗い出し整理することで、手戻りのない確実な設計を行います。
- 費用対効果を検証し、本計画地ならではの有効な環境負荷低減手法を採用することで、ランニングコストを削減します。



【設計工程に合わせたコスト削減】

	H30年度										H31年度																																							
	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3																											
全体工程	● 契約締結										● 設計業務期間(22ヵ月)										● 履行期限●																													
	基本設計(フェーズ1)					基本設計(フェーズ2)					実施設計																																							
	与条件整理					検討					まとめ					検討					まとめ					調整					一般図検討					詳細検討					積算・計画通知					まとめ				
ワークショップ(WS)	★ ヒアリング					★ WS①					★ WS②					★ 住民説明①					★ WS③					★ 住民説明②																								
	理想の職業教育拠点 ヒアリングにより「あったらいいな」をたくさん収集					オンリーワンアイデア 「ここにしかない」コンセプトを立案					配置・平面計画 具体的な配置・平面計画をもとに意見交換					基本設計案の説明 基本設計案について地域住民等に説明					各室詳細 各室の必要な機能・設備を検討					実施設計案の説明 実施設計案について地域住民等に説明																								
コストチェック						概算①(事例単価による概算)					概算②(積上方式による精度の高い概算)																																							
設計審査・計画会議	DR-1(方針確認)					計画会議(計画内容審査)					DR-2(基本設計審査)					設計検証(検図)					DR-3(実施設計審査)					設計検証(検図)																								

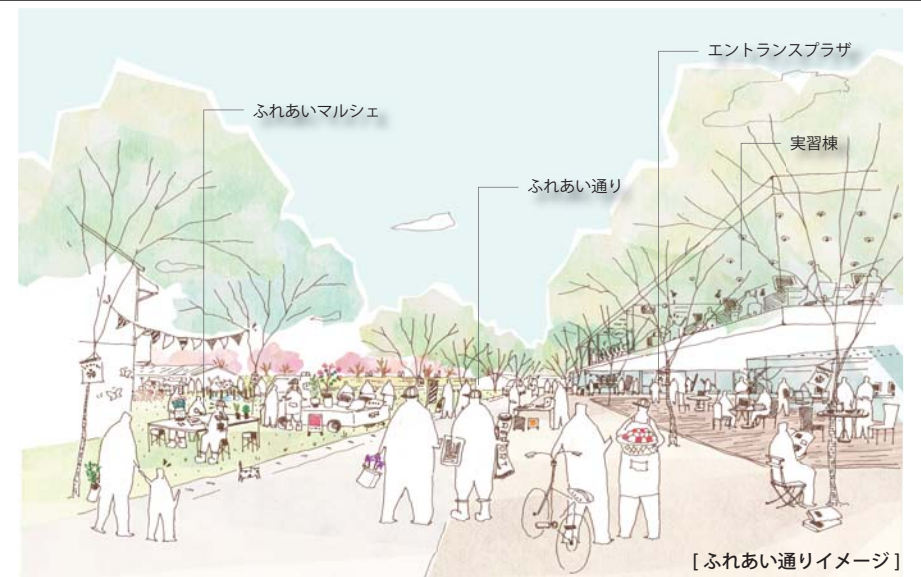
【対話を重視した設計スケジュール】



課題1 3つのエリアにおける学校の機能を考慮した構成について

### 地域に寄り添い、地域と共に成長を続ける職業教育の拠点

蔵王連峰や一目千本桜のように、  
永く地域に愛され、地域と共に成長していく  
職業教育拠点の実現を目指します。



### 地域と共に成長する新たな職業教育拠点の実現に向けて

#### ① 地域ブランドを創出する職業実践の学び場

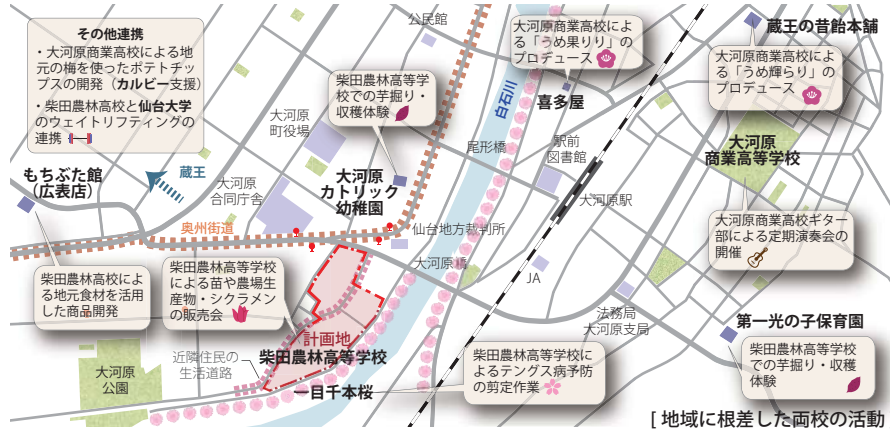
地域に根差した特徴ある両校の伝統を継承しつつ、農林業や商業、観光等の地域の資産を活かした地域ブランドの創出に向けて、新たな職業実践の学び場をつくりまします。

#### ② 生徒と地域の活動をつなぎ、未来へと発展する学び場

地域住民や地元企業、周辺の学校など、地域との連携を図りやすい施設設計画とすることで、協働的な学びや研究を通して、地域と共に成長する学び場をつくりまします。

#### ③ 3つの学科が連携し、学年や学科を超えた新たな交流を生み出す学び場

農林業、商業、デザインの3学科の連携を図りやすい施設構成とすることで、6次産業の一体的かつ循環的な学びを実現する教育空間とし、次世代の人材を育成する学び場をつくりまします。



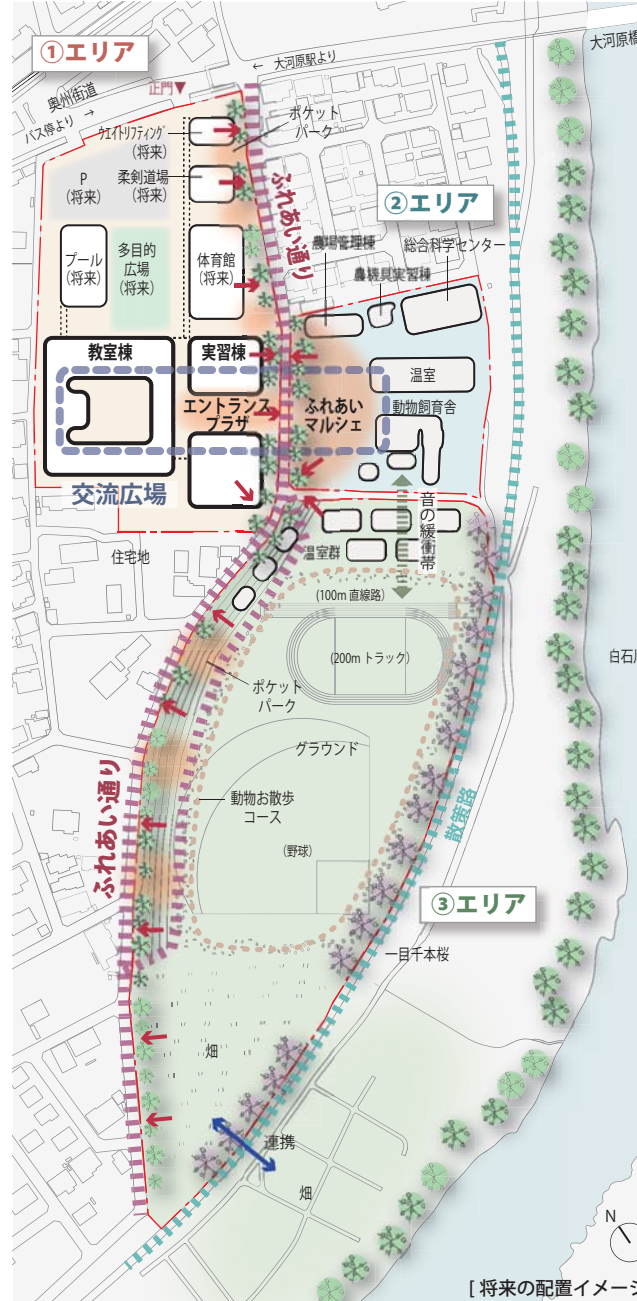
### 3つのエリアをつなぐ「通り」と「広場」

#### ■ 学校と地域を賑わいでつなぐ「ふれあい通り」

3つのエリアに面した道路に歩道を整備し、生徒や地域住民の安全な歩行空間とするとともに、地域の憩いの場となるポケットパークを設けます。これらにより、学校の各エリアの特徴ある活動や賑わいが溢れ出る「ふれあい通り」を形成します。

#### ■ 活動や賑わいを生み出す「交流広場」

全体敷地中央の3つのエリアの結節点に、3学科の一体的な学びを象徴する「交流広場」を提案します。交流広場は、3つのエリアの活動の成果や発表の場とすると共に、地域と連携した多様なイベントに対応できる計画とします。



### ① エリア … 「学習ゾーン」



### ② エリア … 「実習ゾーン」



### ③ エリア … 「野外活動ゾーン」



### 循環的な学びを実現する個性豊かな3つのエリア

#### ■ ① エリア：日常的な学習、発表の場「学習ゾーン」

・奥州街道に面した①エリアは、**日常的な学習活動の場**として計画します。  
・ふれあい通りに面して実習棟を配置し、他のエリアと連携した**6次産業の一体的かつ循環的な学び**が可能な計画とします。  
・将来的には、ふれあい通りに面して体育館やウェイトリフティング場等を配置することで、実習棟と共に**地域連携ゾーン**を形成し、**学校の活動や賑わいを地域へ発信**します。  
・「**エントランスプラザ**」は、実習棟と教室棟で囲まれた半屋外空間とし、学校内の様々な活動が顔を出す構成とします。また校内発表会や地域イベントにも利用できる空間とします。

#### ■ ② エリア：地域との交流、協働の場「実習ゾーン」

・②エリアは、近隣住民や地元企業、動物と日常的に触れ合える場とします。  
・①エリアから連続する交流ひろばに「**ふれあいマルシェ**」を提案します。ふれあいマルシェは、地域に向けた**イベントや成果物の販売**の他、住民が日常的に立寄れる場として開放します。  
・総合科学センターや温室等を活用し、近隣農家や地元企業と協働して**地域ブランドの研究や開発**を行うことができる場とします。

#### ■ ③ エリア：多目的な体験、活動の場「野外活動ゾーン」

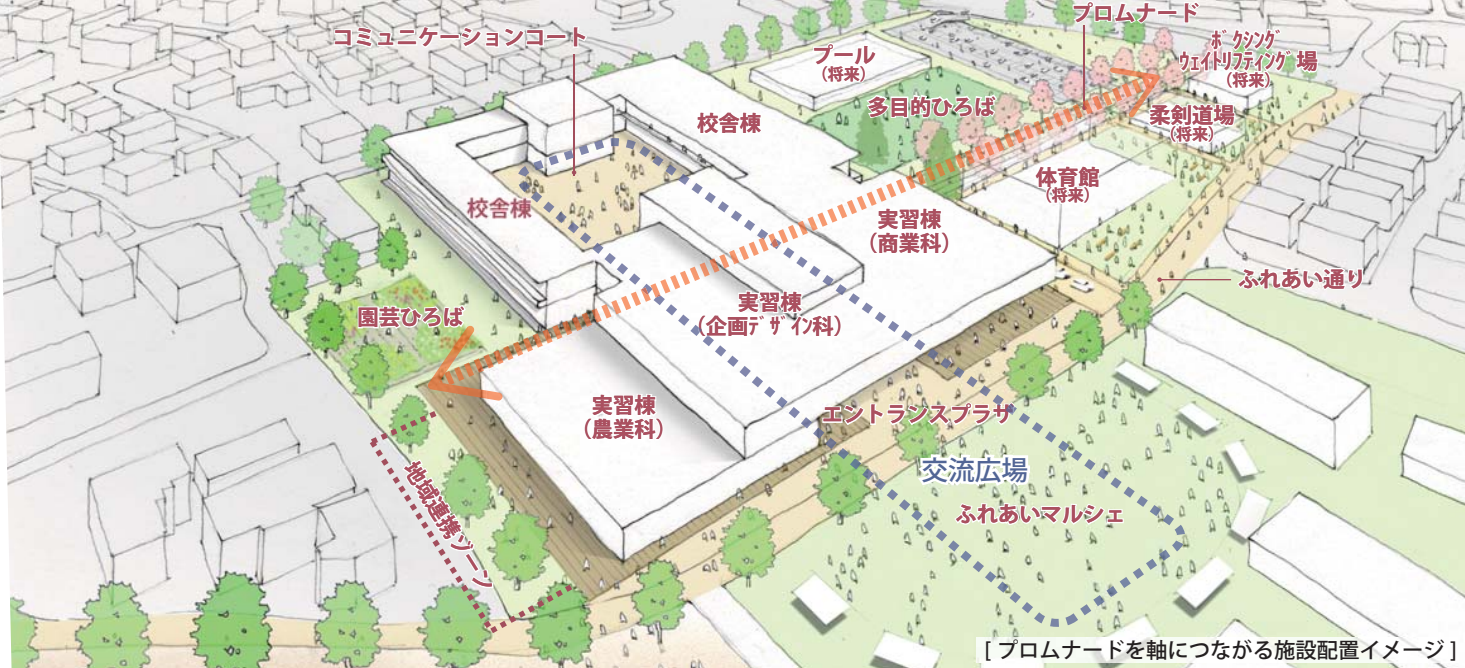
・③エリアは、白石川に面した広大な多目的スペースとして計画します。  
・野外活動ゾーンは、ふれあい通りに沿って、**温室群、トラックや野球場などの運動スペース、動物のお散歩コース**、学生たちが**直売所の運営**を行える**ポケットパーク**、畑などで形成し、四季を通じて活動が感じられる場となります。  
・畑では子どもたちが農作物の**収穫体験**、グラウンドでは、**生涯スポーツ**を体験できる等、地域住民も様々な体験ができるゾーンとします。  
・お花見の時期には臨時駐車場や花見スペースなどイベント時にも利用できる**多目的な場**とします。



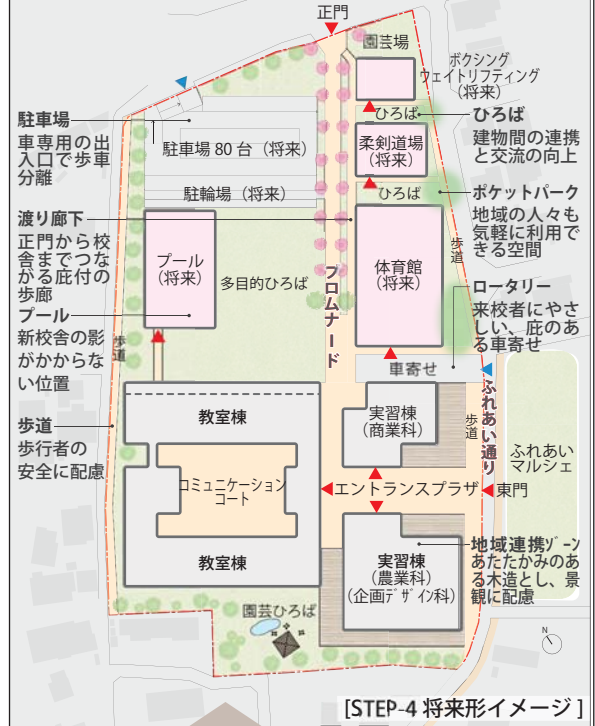


課題2 ①エリアにおける土地利用と既存施設を考慮した配置計画について

### 生徒と地域の活動をつなぎ、未来へと発展する学び場



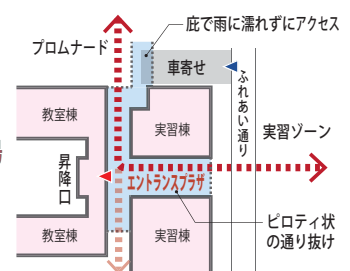
[プロムナードを軸につながる施設配置イメージ]



[STEP-4 将来形イメージ]

### プロムナードから実習ゾーンへ導くエントランスプラザ

- **プロムナードと連続し、実習ゾーンへと繋がる「エントランスプラザ」**
- プロムナードと連続するエントランスプラザは、昇降口前のピロティ空間とし、ふれあい通りや実習ゾーンへと拡がりのある空間でつなぎ、**エリア間の連携を高め**ます。
- **昇降口に近く、利便性の高い車寄せ・駐車場**
- エントランスプラザに面して**庇付きの車寄せや駐車場**を配置し、車利用の来校者アクセスの利便性を高めます。



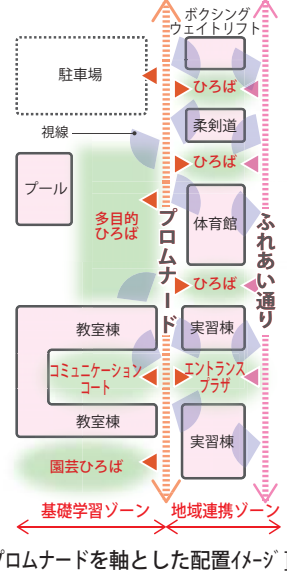
### 地域と共に歩む学校

- **地域との交流を促進する「多目的ひろば」**
- 「多目的ひろば」は、**全校生徒が集まれる広さ**を確保します。
- プロムナードや体育館、駐車場に面して配置し、体育館と連携した**軽運動や地域のイベント**に利用しやすく、臨時駐車場としても活用できます。
- 文化祭や展示会等のイベント利用により、**地域の方々や地元企業へ生徒の学習成果をアピール**する絶好の場所となります。
- **地域にとけ込み、地域に親しまれる景観**
- 地域連携ゾーンの実習棟や将来の体育館等の建物は、**あたたかみのある木造化**を図り、周辺地域に親しまれる景観をつくります。
- プロムナードのシンボルである**杉の木や園芸場は保存**し、卒業生や地域の方々の記憶を継承します。

### プロムナードを軸につながる『校舎』と『ひろば』

#### 学習ゾーンの骨格を成す「プロムナード」

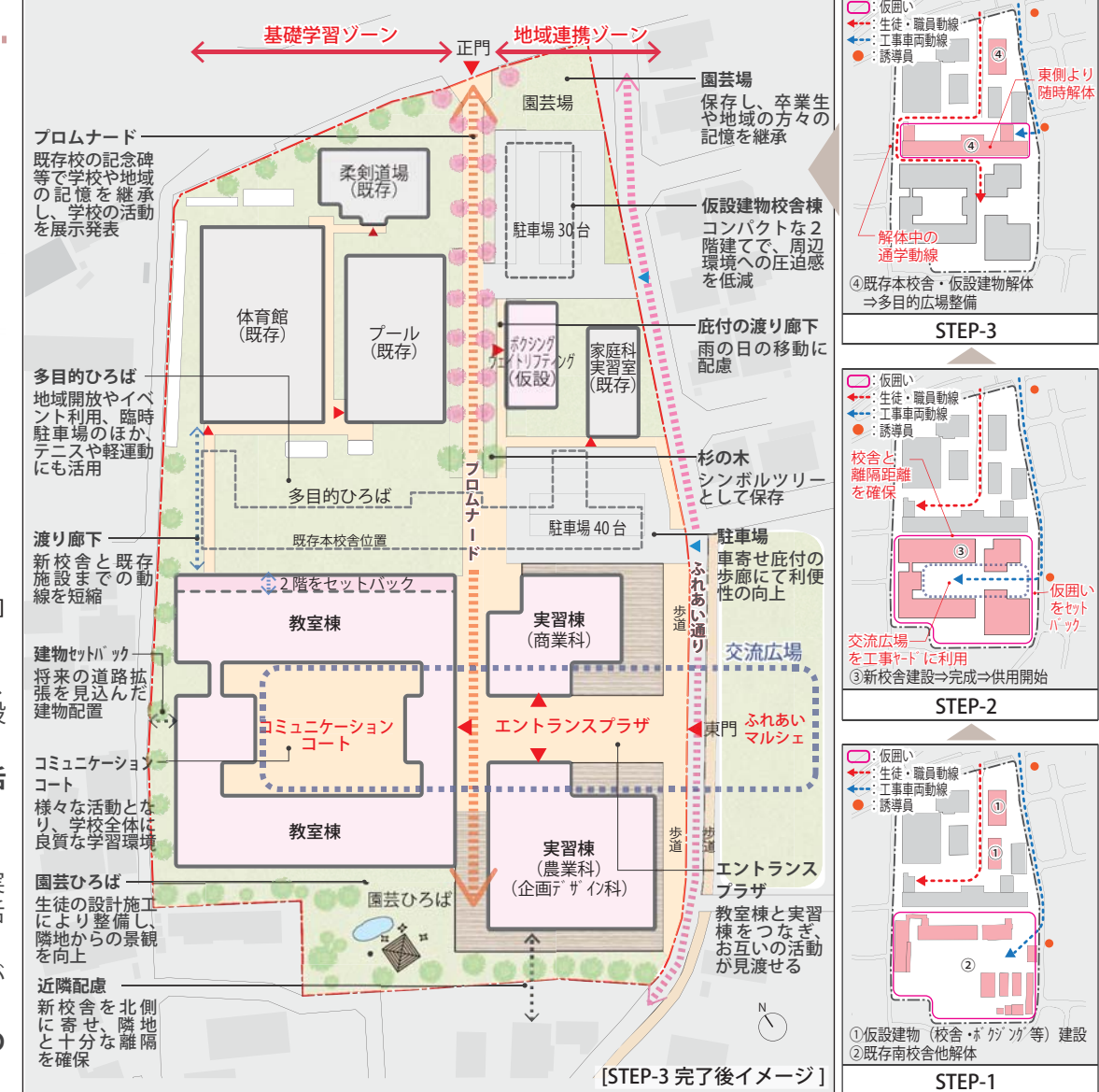
- 正門から既存校舎への通路を延長し、学習ゾーンの主動線となる**プロムナード**を計画します。プロムナード沿いに、**桜並木や庇付き歩廊**を設け、生徒や職員、来校者をやさしく校舎へ迎える計画とします。
- プロムナードに面して、**教室棟や実習棟**、将来の体育館等の校舎を**分棟配置**し、それらの校舎間に**交流を促す広場やテラス**を設けます。
- 生徒が日常通学するプロムナードから、各校舎内の活動が垣間見え、**生徒の活動意欲を高め**ます。この校舎配置の構成は、今後発展していく**学校の骨組み**とします。
- 校舎棟は、**低層化**を図り、屋外空間を明るくし、敷地全体に**伸びやかな学び場**を展開します。
- プロムナードには、既存校の記念碑等を配置し、**学校や地域の記憶を継承**するとともに、**学校の活動を展示、発表**する場とします。



[プロムナードを軸とした配置イメージ]

#### 地域とのつながりを深める「地域連携ゾーン」

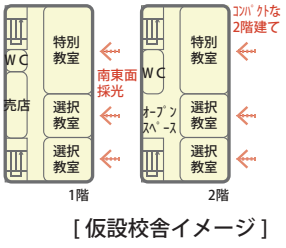
- プロムナードの東側は、「**地域連携ゾーン**」とし、**商業科や企画デザイン科、農業科**で構成した実習棟をはじめ、将来的には**体育館等のスポーツ施設**を配置し、地域連携の行きやすい配置とします。
- 実習棟の専門教室は、ふれあい通りに面して**開放的な設え**とし、**実習活動を地域に発信**します。
- **プロムナードと接続する交流広場**
- 「**交流広場**」は、コミュニケーションコートとエントランスプラザ、実習ゾーンのふれあいマルシェで構成した**一体的な空間**とし、お互いの活動や賑わいをつなぐと共に、**学校生活を象徴する場所**とします。
- 教室棟の**コミュニケーションコート**は、明るく、のびやかな学習空間を展開できる**上足利用の中庭**とします。
- 教室棟と実習棟をつなぐ**エントランスプラザ**は、実習棟の**専門3学科の活動を連携**すると共に、半屋外のイベントに活用できます。



[STEP-3 完了後イメージ]

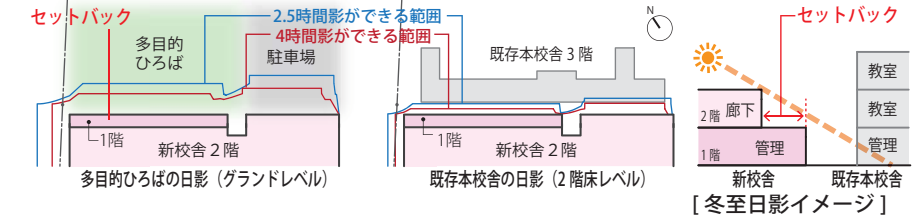
### 既存施設や周辺環境に配慮した施設配置

- **既存施設との連絡動線を最短化**
- 仮設建物を設けることで、**長きに亘り利用する新校舎を理想的な形状で実現**します。
- 新校舎は**南側隣地と十分な離隔**を確保するとともに、体育館等の既存施設までの**生徒動線を短く**します。
- 仮設建物(校舎棟)の教室も**十分な自然採光が確保**できる計画とします。



### 2階建の新校舎とし、屋内・外共に明るい環境を実現

- 新校舎は**2階建**とし、既存施設や周辺への**日影の影響を抑え**ます。
- 新校舎**2階の北側部分はセットバック**することで、多目的広場や既存本校舎棟の教室に、**冬季でも十分な日照**を確保します。



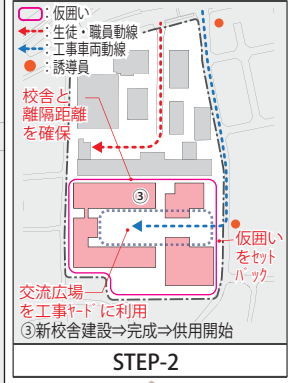
[冬至日影イメージ]

### 校舎形状の特徴を活かした合理的で安全性の高い工事計画

- **コミュニケーションコートや敷地内歩道を工事に活用**
- コミュニケーションコートやエントランスプラザは、**資材ストックや工事関係車両等の工事ヤードに有効に活用**できます。
- 東側の道路幅員が狭いため、仮囲いを敷地内に**セットバック**して設置し、**安全な歩行者空間**を確保すると共に、**大型車両の進入を容易**にします。
- **工事期間中も安全な学習環境を確保**
- 工事車両動線と生徒・職員動線を**明快に区分**し、安全に十分配慮します。
- 防音仮囲いを設置し、**既存校舎や近隣住宅への防音対策**を講じます。



STEP-3



STEP-2



STEP-1



課題3 教育効果を高め、学習意欲の向上につながる施設の空間構成について

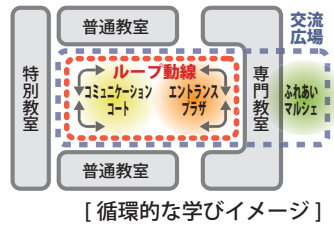
### 3学科の連携と学年を超えた新たな交流を生み出す学び場



### 交流を通じて生徒の社会性を育む学び場

#### ■ 広場を中心とした交流学習空間

- 学年交流、学科交流、地域交流を通じて生徒の社会性を育む施設構成とします。
- 校舎棟と実習棟をループ状の動線をつなぎ、コミュニケーションコートやエントランスプラザを囲うように、普通、特別、専門教室を配置し、一体的、循環的な学びのなかで学習の相乗効果を生み出します。



#### ■ 学校と地域の縁側空間「エントランスプラザ」

- 専門科が面するエントランスプラザは、屋内外で一体的に使えるワークスペースや地域イベント等、学校と地域の活動を受け止め、交流を生む学校と地域の縁側空間とします。

#### ■ 学校活動の交流・賑わいの中心「コミュニケーションコート」

- コミュニケーションコートを中心に、回遊性のある賑わいがプロムナードやふれあいマルシェまで学校全体に広がります。
- 求心性のある2階建ての低層校舎とし、交流しやすく、日照・通風に優れた良質な学習環境とします。

### 学びの相乗効果を高める教室連携

#### ■ 6次産業の学びを実現する「専門教室」

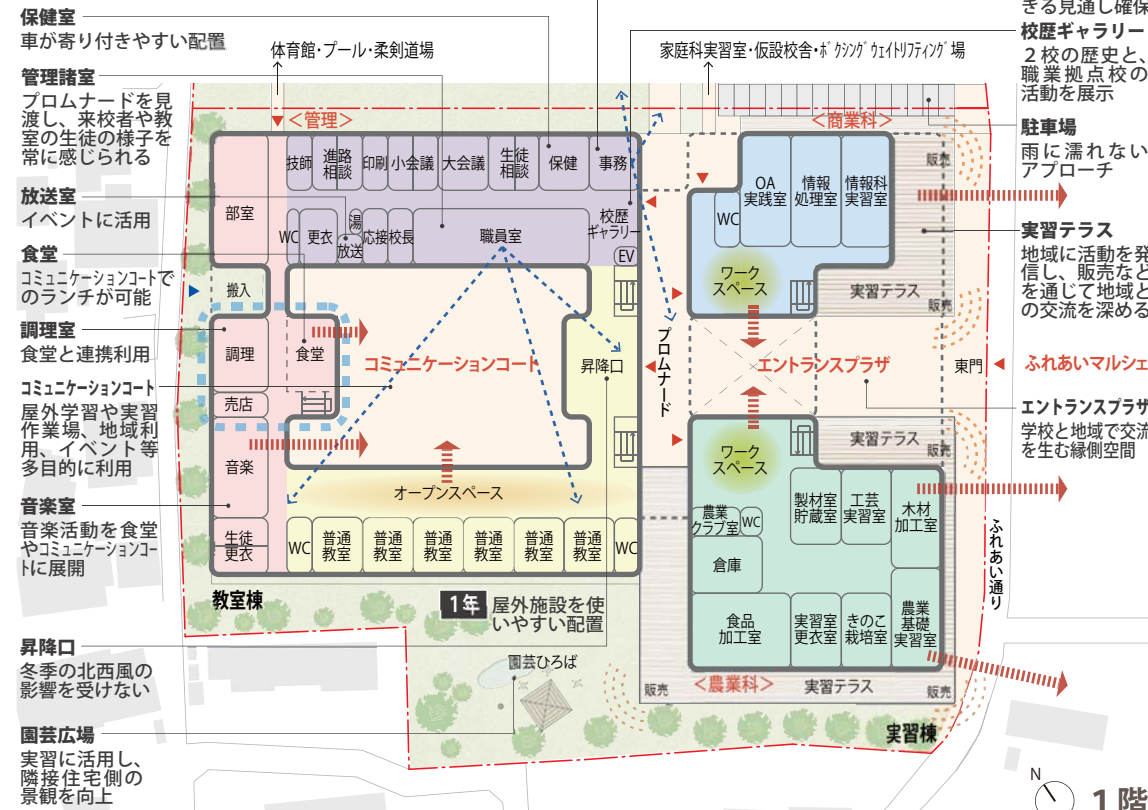
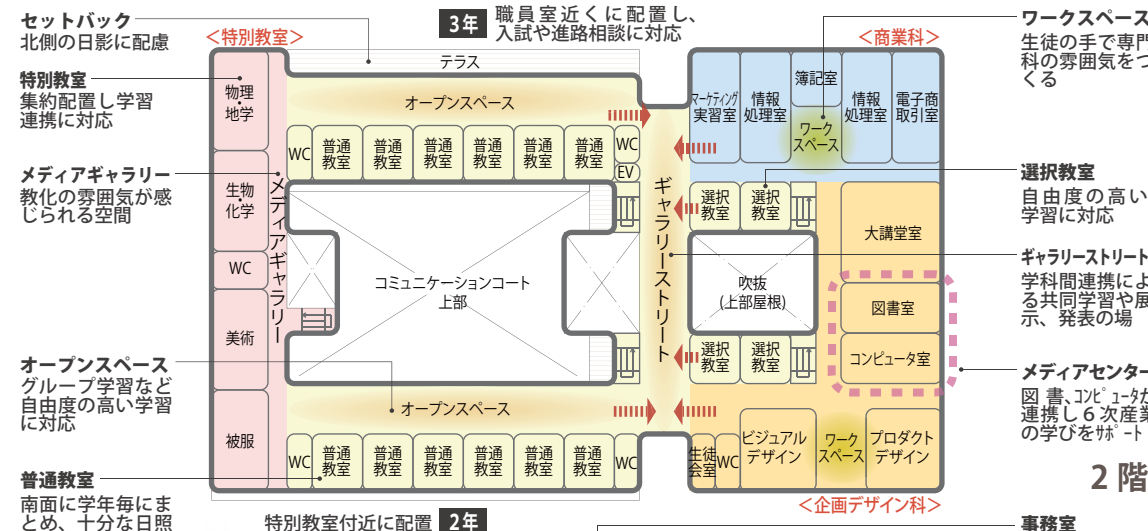
- 商業科、企画デザイン科、農業科の専門3学科は吹抜で繋がる施設構成とすることで、6次産業の一体的な学びを実現します。
- 各学科にワークスペースを設け、実習学習のほか、発表や展示等を行い、生徒の手で各科の雰囲気をつくることで学習意欲を向上させます。
- 互いの活動が見え、ワークスペースでの作業を通じて自発的な学習を促します。
- 専門教室は、実習テラスを通じて②エリアの実習ゾーンや③エリアの野外学習ゾーンとの学習連携を強め、地域交流を深めます。

#### ■ 専門教室との連携を図る「メディアセンター」

- 図書室とコンピュータ室でメディアセンターを形成し、各学科の専門教室が入る実習棟に組み込むことで、6次産業の学びをサポートします。

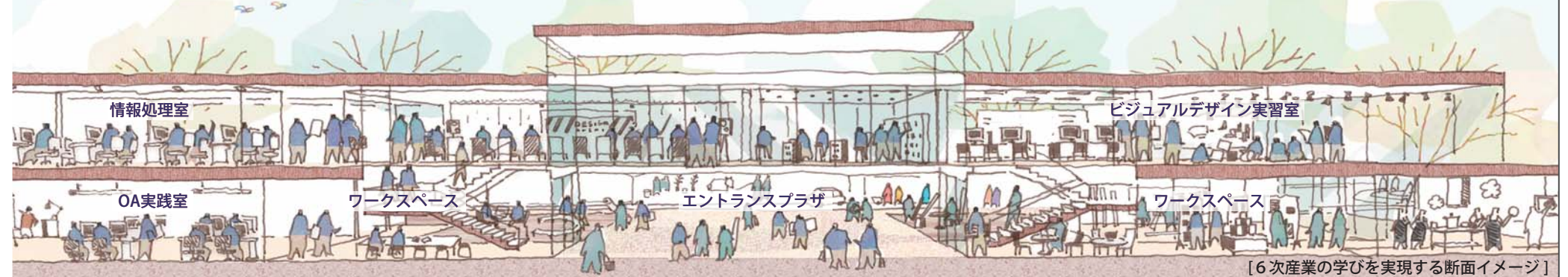
#### ■ 独立性が高くフレキシブルな「普通教室」

- 学年毎のまとまりを確保し、将来の学科構成変動等に柔軟に対応します。
- オープンスペースでグループ学習など自由度の高い学習に対応します。



凡例 普通教室 特別教室 管理 農業科 商業科 企画デザイン科

【学習の相乗効果を生む平面イメージ】



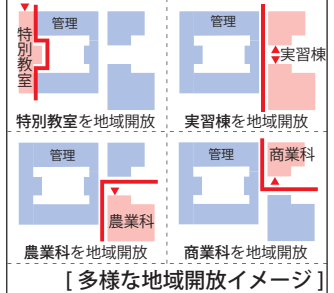
### 学習をサポートし、地域も活用できる多目的学習空間

#### ■ 3学科が連携したギャラリーストリート

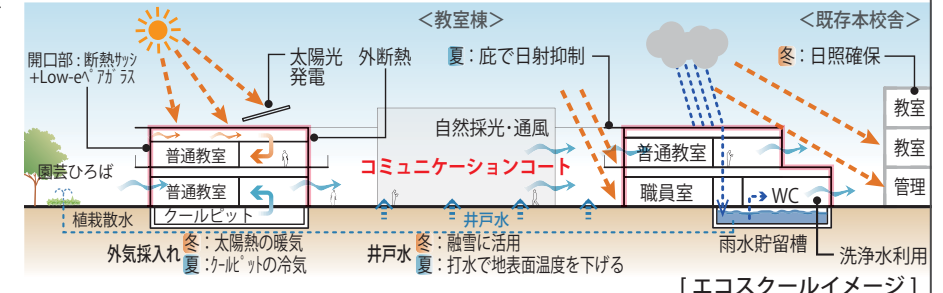
- ギャラリーストリートは、学科間連携による共同学習や、学習成果の展示、発表など、拡張性の高い学習空間とします。
- 選択教室は、アクティブラーニングやグループ学習のほか、少人数学習など多様な学習形態に対応します。

#### ■ 地域と共に学び、人を育てる

- 各教室は、コミュニケーションコートやエントランスプラザを囲むループ構成を活かした明快なセキュリティラインで区画できる計画とします。
- 実習棟だけでなく、農業科、商業科、特別教室のゾーンを単独で地域開放でき、地域の生涯学習拠点としても各教室を活用できます。



### 教材となる快適な学習環境



#### ■ 自然エネルギーを活かしエコスクールを実現

- 太陽光や熱、雨水など自然エネルギーを活用し、学習教材に役立てます。
- 普通教室は、パネルヒーターによる輻射熱暖房とし、快適で静かな学習環境を実現します。
- 常時利用していない特別教室や専門教室等は、すぐに温まり、ローコストなFF暖房とします。
- 冬場の外気の採入れは、二重屋根による太陽熱、夏場はクールピットによる冷気を活用し、空調効率を高めます。

#### ■ 地域資源を学習に活用

- 実習棟は木造とRC造の混構造とし、木材利用の学習教材として専門科の実習に活用します。
- 内装材に県産木材を積極的に活用し、温かみのある学習空間とします。

#### ■ 厳しい気候を和らげるコミュニケーションコート

- 中庭型配置により、校舎の北側に十分な日照と通風を確保するとともに、強風や蔵王嵐から生徒を守ります。
- 井戸水を散水し、夏場は地表面温度を下げ涼風を室内に採り入れ、冬場は融雪に活用します。